さらに

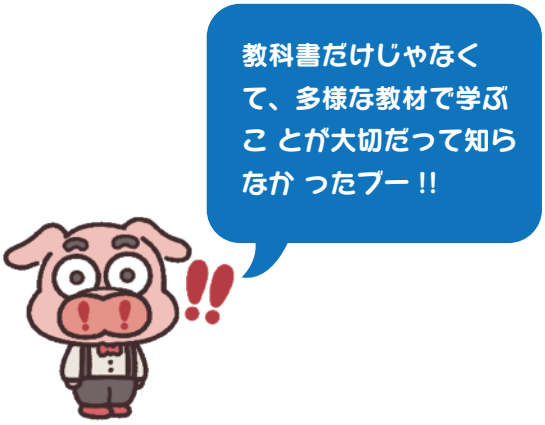
安井先生に聞く 道徳科のポイント

Q1　どうして教科書でなく、番組を使ったのですか？

もちろん「教科書」を使って学ぶことを基本としています。しかし、学習指導要領では、「多様な教材」で道徳科の授業をすることが、求められています。

番組は、映像ですので「表情」や「声色」「声の大きさ」といったリアルな人の姿から、心情を考えることができます。実生活 でも、そうですよね。これは、教科書にはないよさです。また、読解力などの能力によらず、多くの子にとって分かりやすいというメリットもあります。つまり、その後の「考え・議論する」ための土台をクラス全体で作ることができるということです。

また、指導案やワークシートなども準備されているという点からも、NHK for School の番組は、どこの学校でも活用しやすく、便利であると言えます。



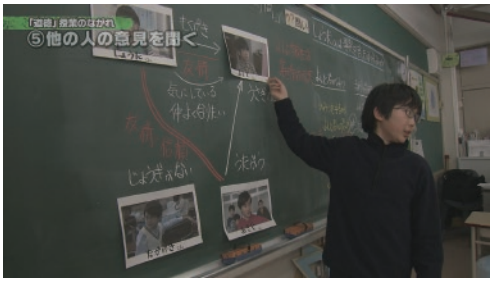
Q2　どうやって「評価」しているのですか？

コンシェルジュ(土田先生)もおっしゃっていましたが、道徳は「点数が付かない」「進路に関係しない」ことになっています。他教科と違って、到達ラインを超えたか超えないか（絶対評価の考え方）という評価が難しいからです。そもそも、「これを理解したらよい、というような到達すべきライン引き」もできません。では、何のために評価をするのでしょうか。それは、「その子の道徳的なよさを認め、励まし、伸ばすため」とされています。そして、私たち教師にとっても、授業をよりよいものにしていくという点で大切です。自らの授業を子どもたちの学びという点で評価して、道徳科の学習を改善していくのです。

具体的には、人と比べたり、何かの基準をもったりせずに、その子の「中」でどういった成長が見られるのか（個人内評価）を 評価するようにしています。とはいえ、たった45 分では分かり ません。たまたま、そういう姿があったというのではなく、道徳科の学習を積み重ねていくことで、「あ、この子は変わってきたな」という長いスパンでの評価が大切です。

どのような視点で変化を見ているのかというと、「①一面的な見方から、多面的・多角的な見方へ」、「②自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めているか」というようにです。

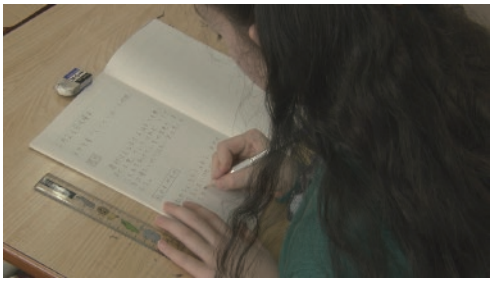
①「一面的な見方から、多面的・多角的な見方へ」



僕はこう思う！というときに、「あー、そういう考え方もあるよな。」と、いろいろな価値観に触れたうえで、「こう思う！」というのと、何の意見も受け止めずに「こう思う！」というのでは、生き方の選択肢の幅は変わってきますね。

道徳科では、ペアや小グループや学級全体など、様々な形で 対話を行います。その対話が、自分の見方・考え方の広がりに生かされているか。逆に言うと、教師は、そういう学びができるような指導をすることができていたか。と評価するのです。

②「自己を見つめ、自己の生き方について考えを深めているか」



教材について、感想をもっていても、私事 (自分事) にな ら なければ意味はありません。また、きれいごとばかり言って、自己を見つめられないのであれば、机上の空論になってしまいます。

道徳科では、「今までの自分はこうだったなぁ」「もっとこういう生き方をしたいなぁ」というように、自分自身の在り方をみつめ、夢や憧れをもって、よりよい自分の将来を思い描くことが大切です。自分を棚に上げて、きれいごとを言っていても 意味はありません。また、思ったからできるとか、すぐに実現できるというわけではありません。そういう意味で、道徳は「将来への種まき」と言えます。

こうありたいと思って生きていくうちに、いつか、そういう生き方ができていた。となるのかもしれません。道徳科の学習をしていく中で、自分なりによりよい生き方を考えられるようになっているのか、という点で評価をしています。これは、子どもだけではなく、大人 (教師) にとっても大切なことだと思います。

よりよい生き方を考えられるようになっているかが評価のポイントなんだブー